

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2016年11月21日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.57

<生徒の心に火を点ける!>

読者の皆さん、森絵都さんの「みかづき」は、もう読まれましたか。まだの方がいれば、お薦めです。学習塾の物語です。私はこの本を読んで、若い頃に抱いていた志を思い出し、やる気になりました。

さて今回は、生徒の心に火を点けるための考え方を考えてみたいと思います。つまり生徒を刺激して、どう勉強に向かわせるか、そのことを書いてみたいと思います。

この刺激の前提は生徒とラポールを築くことです。ラポールとは「心の架け橋」のことです。授業に代表されるように、あらゆるコミュニケーションで成り立っている学習塾において、生徒や保護者とラポールを築くことは教室運営において大きな土台となるものです。しかし、特に難しい時期でもある思春期の生徒とラポールを築くのは容易なことではありません。たくさんの生徒を塾・先生のファンにするために、どのようにしてラポールを築き、刺激していったら良いのでしょうか。

思春期の子どもはとにかく不安になっています。多かれ少なかれ、「誰も僕のこと(私のこと)を理解してくれていないんじゃないか」と感じる傾向にあります。ですから、「先生は、君のことを理解しようとしているよ」という態度を示すことが非常に重要なことです。

例えば、以前、こんな生徒がいました。その生徒は悪い仲間誘われて犯罪に加担してしまいました。自動販売機からお金を盗もうとする企ての、その見張り役にさせられ、警察に捕まってしまったのです。そんな彼に対して思い切り叱りつけて反省を促すのが普通だと思います。もちろん、そのやり方が悪いわけではありません。しかし私は、この生徒に対して、そのやり方では一層心を閉ざすことになってしまうと思い、次のような話をしました。

「今回のことだけど、もしかしたら、俺が君の立場でも、そういうことをやってしまったかもしれないな。自動販売機からお金を盗むっていうのは悪いことだけど、みんなから頼まれたんだったら、見張りになってしまうかもしれないな、俺も。そういう部分では、君がこうやって捕まったのは不運かもしれない。でもこういうことをもう一回やるかい？もうやりたくないだろ。そうしたら、どうしたらいいのかな。ちょっと先生と考えてみないか」

犯罪に加担したことを、頭ごなしではなく、このように話して「そうか、先生も、もしかすると、僕と同じ立場になるの

か」というところからスタートしていけば、生徒も聞きやすくなります。こうすれば、注意や命令ではなく、自分で「これからどうしたらよいか」と促すように持っていくことが可能です。こういうことが言えるようになるためには、生徒のところまで降りていくという感覚が必要です。これがラポールを築く一つの手段です。

学校の先生然り、塾の先生然りですが、先生はみんな建前と言うことが本当に多いものです。例えば「そういうのは悪いって知っていただろ?!」という具合です。数年前に私が学園改革を行ったある私立学校でも、建前で語る先生がいました。

その先生は生徒指導を担当しており、空手部の顧問でもありました。空手部の生徒たちが中庭で何かをして遊んでいたらしいのですが、ちょうどそれをその先生が二階から見つけたのです。中庭で遊ぶことは禁止されていました。

生活指導でもあり、そして空手部の顧問でもある先生は怒り心頭だったのでしょう。二階から怒鳴っているところに私は出くわしました。

「お前ら、それが悪いの分かってるだろ！」

と、ものすごい剣幕です。生徒たちは「はい」と答えます。

「じゃ、なんでやるんだよ！」

「すいませんでした」

と、先生が怒鳴って、生徒が謝るとい、しばらくはその繰り返しでした。私は思いました。これじゃ、この先生は生徒のことは何も分からないだろうな……と。

生徒は悪いことだと分かってやっています。生徒が悪いことと分かっていて、それをやるのは、何か悪いことをやりたい理由があるからです。「それがいったい何なのか」というところに関心を持ったほうがいいのです。

そうすると、こんな対応も可能になります。「そうか、そんな理由で悪いことをやったのか。そういう気持ちになったら、先生もやるかもしれないな。じゃあ、そんな気持ちにならないためにはどうしたらいいのかな。こう考えたほうが良かったんじゃないか。そうするとやらなくて済んだと思うぜ」。

結局、私たちは、生徒の指導者ですから、最終的には生徒たちを良い方向に導いていかなければなりません。導いてゆくため

には、彼ら自身が自分の足で歩いてくれないと困ります。彼らの足が動くために、私たちは彼らのエンジンにならなければならないのです。エンジンとして一緒に乗ってやらないといけないわけですから、「嫌だよ、一緒に乗らないでよ」と言われない状況を作らなければなりません。

そのために、まず、やった事実・起こった事実に対して「受容する」ということが非常に重要なことです。受容がないと、その先へは進みません。まずしっかりと相手の気持ちを受容することがラポールを築く第一歩となります。この先生なら、僕のこと、私のことを分かってくれるかもしれないな……というきっかけ作りが「受容」なのです。

ここまで見てきたように、ラポールを築くためには、生徒に気持ちで寄り添ってあげることが大切です。しかし、寄り添いすぎて、「全面肯定」してしまつてはダメです。ミイラ取りがミイラにならない強い気持ちが先生にないと、先生が取り込まれてミイラになってしまいます。これも非常に重要な部分です。

それでは、教師はどういう意識でいることが重要なのでしょうか。

ラポールを築くとは、生徒に自分を受容させることです。そのためには、まず、彼らを受容しなければなりません。しかし、ラポールを築くその目的を忘れないでください。目的は、生徒に適切な方向に向かって歩んでもらうことです。彼らを導くためにラポールが必要なのです。

ですから、「不適切な状況に自分も一緒に加担することは絶対しない」と強く決めておかなければなりません。受容もします、共感もします、しかし、それは生徒の過ちを肯定することとは違います。悪いことをしてしまった、その時の気持ちに共感しつつも、それを二度と繰り返さないための導きを私たちはしなければならぬのです。

私たちの指導の目的は、生徒を適切な方向に導くことです。そこを見失わないで下さい。

ラポールを築くためには、受容と共感だけでなく、彼らにいろいろな価値の提示や大人になるための道筋を示してやることも必要になります。例えば、「大人になるってどういうことだと思う？」と訊いてみてください。私は、現場にいる時はよくこんな話を生徒にしました。

「先生は大人だよな。僕は、こうして君たちに勉強を教えお金を儲けて生活している。大人になるってことは何かでお金を儲けて生活しなきゃいけないんだよ。じゃあ、そうしたら君たちは、何かでお金を儲けるといふ、その『何か』を見つけなきゃいけない。そのためには勉強しなければならないし、その『何か』が見つからない限り社会には出られない。だから大学へ行って探してみる人も多んだよ。そんなふう考えたほうがいいよ。実は、こんなこと、大人になったら誰も教えてはくれない。今のうちからいっぱい教えてもらったほうが

いいんだよ」。

また、授業中に本の紹介もたくさんしました。「大人になったら、忙しくて意外と本を読まないから、今のうちにいっぱい読んだほうがいいよ」なんて言いながら本を紹介しました。「こんな本があるから、読んでみな」と、薄い本から厚い本まで出していきました。その時は、本のあらすじを少し伝えることが重要です。すると「面白そうだな」と興味を持つ生徒が出てきます。そうして「じゃあ、ちょっと詳しく読んでみてごらん」と勧めます。本の紹介はこのような形でやったほうがいいでしょう。そうして、私は、「何月何日までに読んできな」とか「買ったなら持ってきてな」とか言っていました。

そして、生徒が読んだ後には「どうだった？」と必ず聞きます。私の好きな話で「ゲド戦記」があるのですが、「ほら、ゲドは影がなかっただろ、どんな理由か分かる？」などと問いかけをします。生徒が読んだら、またその話をします。そういう中で教科を超えるいろんなことを伝えて、「大人になるってどういうことなのか」を考えさせました。

こういうことを続けると、生徒は、徐々に「あ、そうか、先生はそこまで教えてくれるんだ」「勉強以外のこんなことまで教えてくれるんだ」「だったら、先生に相談しようかな」という気持ちになります。そうすると、今度は部活のこと、彼氏・彼女の問題、高校のこと、将来の夢、家庭の問題など、様々な相談に生徒がやって来るようになります。色々な相談に乗りますから、さらに彼らとラポールが高まるのです。

先生は授業も行い、生徒指導も行い、そうしてなおかつ、生徒たちとラポールを築くために多面的な良い刺激を与えていくことを考えることです。一つのボタンしか押さない刺激ではなく、いろんな角度で、ドンドン生徒を刺激してほしいと思います。

生徒を受容し、共感し、そして、多面的な良い刺激を与える。

こんな先生がたくさん生徒とラポールを築ける先生だと思えます。

ぜひ、日々の実践を心がけてください。

【編集後記】

今月11月27日(日)に東京・渋谷サンスカイルームにおいて、スペシャルなセミナー『MBA15周年記念セミナー』を開催します。創立15周年の感謝を込め、5人の塾の達人が登壇！学習塾経営の現状分析から、WEB集客、スクール経営、そして学習塾の未来へとテーマが進む、盛りだくさんの内容となっています。受講料も感謝価格！詳しくはホームページでご確認ください。

<http://www.management-brain.com/2016/15aniver>

お問い合わせ、お申込、お待ちしています。

お問い合わせ先→TEL045-651-6922

Mail:mailadm@management-brain.co.jp

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド Vol.21-1

2020年度に始まる高大接続システム改革と新学習指導要領の導入を控えて、英語教育に対する保護者の関心が急激にたかまりつつあるようです。

NPO日本国際交流振興会が6月、全国の小中高校を対象に「児童生徒と保護者の英語教育に対する要望は高まっていると感じますか」と尋ねたところ、こんな結果が出たそうです(10月17日付け同会プレスリリース)。

■児童生徒と保護者の英語教育に対する要望は高まっていると感じますか

	児童生徒	保護者
高まっている	68.9%	79.0%
以前と変わらない	28.8%	19.6%
低くなっている	1.4%	0.5%
無回答	0.9%	0.9%

双方ともに強い関心を持っていることがうかがわれますが、とりわけ保護者はより強く英語教育の必要性を感じていることが見て取れます。

もう一つ、この8月に(株)リクルートマーケティングパートナーズが首都圏の未就学児・小学生を持つ母親を対象に実施した「今後、習わせたい習い事ランキング」調査の結果も記しておきましょう(複数回答/9月26日付け同社プレスリリース)。

【未就学児】

1位	水泳	32.4%
2位	英語・英会話	30.1%
3位	ピアノ	17.5%

【小学校 低学年】

1位	英語・英会話	27.8%
2位	水泳	16.2%
3位	書道	16.2%

【小学校 高学年】

1位	英語・英会話	25.9%
2位	書道	9.7%
3位	学習塾・幼児教室	7.4%

【全体】

1位	英語・英会話	27.9%
2位	水泳	18.6%
3位	書道	13.2%

ここでも保護者が英語教育に高い関心を寄せていることがよくわかります。

ところで、では実際にはどれだけの子どもがどういう形で英

語・英会話を習っているのでしょうか。(株)ジャストシステムがこの9月に、全国の3歳児～小6生を持つ母親1,102人に行った調査がありますので、こちらで紹介しておきましょう(9月8日付け同社プレスリリース)。

■現在、家庭内および習い事で、英語学習に取り組んでいる子どもはいるか？

現在、している子どもがいる	33.1%
以前、していた子どもがいる	11.3%
させたことはない	55.7%

「家庭内および習い事で」とは「学校外で」の意でしょうが、学校外で現在、習っている子どもは3分の1、以前、習っていた子どもは1割強。この結果を多いと見るか少ないとみるかは難しいところですね。

ちなみに、学校で英語学習(外国語活動)を行っている小5、小6の児童に限ってみると、次の結果が出ています。

	小5	小6
現在、している子どもがいる	36.6%	36.3%
以前、していた子どもがいる	9.7%	15.6%
させたことはない	53.7%	48.1%

■現在、英語学習をしている形態について当てはまるものは？(複数回答)

英会話・英語の専門スクール	38.6%
学習塾や公文で	24.4%
DVD・CDの英語教材	21.0%
通信教育(タブレット教材を含む)	20.2%
ドリル形式の英語教材	12.2%
語学講座のテレビ番組を視聴	11.1%
スマホの英語学習用アプリ	10.5%

現在、学校外で英語を学習している子どもがどういうふうに習っているかを尋ねた質問への回答です。

大雑把に言って1,000人の子どもがいるとして、現在、英語を習っている子どもは331人。うち128人が英会話・英語の専門スクールに、81人が公文を含む塾に通い、70人がDVDやCDで勉強、67人が通信教育で勉強している勘定になります。

塾に通って英語を習っている幼児・小学生はわずか8.1%。われわれとしてはちょっと寂しい数字ですね。

ただし、現時点でこれだけということは、やり方次第でもっともっと集めることができる、関心が強まってきているのだからノビシロは極めて大きい、とも言えるのではないのでしょうか。最後に、そうした集客のためのヒントになりそうな数字を1つ。

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド Vol.21-2

■お母さんご自身が、
お子さんが「中学3年生になった時点」で
目標としている英語のレベルは？

英検 1 級 (TOEIC900点前後)	6.8%
英検準 1 級 (TOEIC750点前後)	5.4%
英検 2 級 (TOEIC600点前後)	16.5%
英検準 2 級 (TOEIC450点前後)	11.1%
英検 3 級	12.2%
英検 4 級	1.7%
英検 5 級	0.6%
学校の授業についていければ	15.3%
英語嫌いにならなければ	6.3%
特に目標は定めていない	23.9%
その他	0.3%

現在、学校外で英語を学習しているお子さんに期待するレベルですが、英検準 2 級以上との回答が39.8%、3 級以上との回答が52.0%を占めています。

ご存知のように昨年12月、文科省が英語力の全国調査を行っています。それによると、12月時点で「英検 3 級以上の英語力を持つ中学校 3 年生」は全体の36.6%だったそうです(文科省「英語教育実施状況調査」/ 4月4日発表)。ということは、

「中学校 3 年生になった時点」で 4 級を取得できればふつうは、まあまあ上位クラスに位置するということでしょう。

しかし、学校外で英語を勉強させたいと考えているお母さま方は、それでは満足してくれないようです。

そうしたお母さま方の期待や希望にどういふ謳い文句や指導システムで応えていくかが、今後の集客のカギになっていくのではないのでしょうか。

PS・コンサルティング・システム 小林 弘典

日本で一番売れている英会話教材を学習塾用にカスタマイズ



- 自宅でも教室でも学習可能。
- ゲーム感覚で楽しみながら、何度でも学習できる。専用タブレットのみでご利用頂けます。

学習塾だからこそできる小学生英語指導

今まであった小学生向けの英語指導とはココが違う!

日本で一番売れている英会話教材を中学英語学習指導要領に対応。

アプリによるデータ供給型だから小学英語必修化でも即対応可能。

学習塾経営のプラスになるコンテンツはココが重要!

学習塾は長期能力育成型モデルより短期集中対策型指導が得意。

小学英語は授業料が安いのでランニングコストは低いことが絶対条件。

生徒・保護者の英語学習に対する本当のニーズとは?

生徒は自分のペースで楽しく学習を進めることが一番大切。

結局、保護者の一番のニーズは「中学校で100点が取れるかどうか」

小学校4年生から始めて中学校の定期テスト満点を目指す。